



2018 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 (2018 SUPER FORMULA) 第 4 戦: 富士スピードウェイ (静岡県小山町) レース報告書

予選: 7 月 7 日 (土)

天候	曇り時々雨
観客動員数	10,600 人
成績	ナレイン・カーティケヤン 選手 (#64): 18 位 伊沢 拓也 選手 (#65): 11 位

決勝: 7 月 8 日 (日)

天候	曇り時々晴れ
観客動員数	20,800 人
成績	ナレイン・カーティケヤン 選手 (#64): 16 位 伊沢 拓也 選手 (#65): 15 位

<予選レポート>

1 カ月半ぶりの SUPER FORMULA は第 4 戦が富士スピードウェイで開催される。予選日は早朝から雨が降ったり止んだりの不安定な天候で、朝のフリー走行はウエット宣言が出され、霧雨が降る中、予選に向けて確認を終えた TCS NAKAJIMA RACING の 2 台は公式予選に臨みます。

まずは Q1。止んでいた雨が降り始めますが、路面を濡らすほどではなく、2 台はスリックタイヤでコースイン。揃ってミディアムタイヤでタイムアタックを行います。64 号車ナレイン・カーティケヤン選手は 1 分 25 秒 307 で 18 番手タイム、65 号車の伊沢拓也選手は 1 分 24 秒 539 で 8 番手タイムをマークし、一旦ピットに戻ります。残り時間が 7 分半となった頃、タイヤ交換を終えた 2 台は再びコースインをしていきますが、この頃、コース上にパラパラと雨が降り始めます。その後、次第に雨脚が強くなり、スリックタイヤでのアタックを試みたものの、タイムの更新は望めず、ほとんどのチームがマシンをピットに戻したところ、ここで Q1 終了時刻を迎えます。カーティケヤン選手は Q1 で敗退となり、一方、伊沢選手は 8 番手で Q2 に進出します。

続く Q2 のスタート開始時は、雨は止んだ状況だったものの、全 14 台のうち伊沢選手を含む半数のマシンがウエット、残り 7 台はソフトのスリックで、タイヤ選択が二手に分かれます。伊沢選手はアウトラップで判断し、そのままピットに戻り、スリックタイヤに交換してタイムアタックに挑みましたが、アタックラップでのミスが影響し、1 分 24 秒 680 の 11 番手で予選を終えました。

<コメント>

中嶋 悟 総監督:

「変わりやすいコンディションの中、二人とも頑張ってくれましたが、カーティケヤンはピットインのタイミングやセッティングの変更がうまくいかずタイムアップできませんでした。伊沢にはアタックラップでミスがあり、2 台とも普段の実力が発揮できなかったように思います。マシンの状態は悪くありませんので、明日の決勝で巻き返します」

ナレイン・カーティケヤン 選手:

“The car was ok, but after four minutes to starts of qualify, it’s rained. So we decided to keep the wet setting on the car. But the track was dried completely. And then next 4 minutes, we set a wet setup on the car on the dried track. Because of this, we were too slow. Its decisions, but the engineers made. Most of the time is right but this time was little bit not right decision. Thank you.”

「マシン自体の調子はよかったですと思います。予選の途中で雨が降ってきたため、ウエット用のセットアップに変更し、後半はウエットのセットアップでタイムアタック臨みましたが、トラックは完全に乾いており、結果として乾いたトラックをウエットセットアップで走ることになってしまい、予選を通過できるだけのタイムを出せませんでした。今回はエンジニアにとっても難しい判断だったと思います。やむをえません」

伊沢 拓也 選手

「フリー走行から予選にかけて不安定なコンディションの中、Q3 まで行けるポテンシャルはあったのですが、Q2 最後のアタックで失敗したことが敗退につながってしまいました。クルマの状態はよいので、明日はしっかりと決勝レースを戦います」

<決勝レポート>

決勝日は曇り空ですっきりしない天候でしたが、雨が降ることはほとんどなく、終始ドライコンディションでの走行となりました。午前中に行われたフリー走行で決勝に向けた確認作業を行い、決勝スタートに備えます。14 時 15 分、定刻で 55 周回の決勝レースがスタート。18 番グリッドからスタートしたカーティケヤン選手はミディアムタイヤを装着し、序盤でふたつポジションを上げて順調にレースを進めますが、半分の周回を過ぎる頃、後続のマシンにパスされ、元の 18 番手を走行していきます。一方、11 番グリッドからスタートした伊沢選手は、中盤までポジションを守りましたが、終盤を迎えるに従い、タイヤの摩耗が激しくなり、ペースを保てず徐々にポジションを落とし、苦しい周回が続きます。残り 15 周となる頃には、17 番手を走行。最終ラップで上位マシン2台が接触アクシデントでストップしたため、それぞれふたつ順位を上げて、カーティケヤン選手は 16 位、伊沢選手は 15 位でチェッカーフラッグを受けました。

<コメント>

中嶋 悟 総監督:

「2 台とも作戦が思い通りに機能せず、力及ばずのレースになってしまいました。今回よくなかった原因をしっかりと究明し、今後のレースに活かせるよう準備していきます。今回もたくさんのご声援をありがとうございました」

ナレイン・カーティケヤン 選手:

“Today’s race was quite difficult for us. At Sports Land SUGO we had a very good car which allowed us to score points, but today we were struggling with tire overheating. In the early stages of the race I was able to pass a couple of car and we pitted early to get a better run in clean air, however, our performance has rapidly dropped with the soft compound tire after the pit stop. We have to keep our heads down and work hard for the next race at Twin Ring Motegi. I am sure that the team will be able to analyze what went wrong today and will address the problems, so we can fight back at Round 5. Thank you.”

「今日のレースは難しいものとなりました。前戦のスポーツランド SUGO ではポイントを獲得できる仕上がりでしたが、今日はタイヤが消耗してしまいました。レース序盤では数台オーバーテイクし、クリーンラップを走れるよう、早めのピットインを考えていましたが、ソフトタイヤに交換して早々にパフォーマンスが落ちてしまいました。ツインリンクもてぎでのレースに向けて、より一層努力しなければなりません。チームはデータを解析して反省点を洗い出してくれると思います。次戦はポイント獲得を目指して頑張ります」

伊沢 拓也 選手

「スタートでふたつポジションを上げることができましたし、早目にソフトタイヤに交換し、よいペースで走るという作戦は、途中まではうまく機能していたのですが、レース中盤以降はタイヤの摩耗が激しく、最終的には順位を落とす結果になり、ポイントを獲得できませんでした。しかし作戦を含め、トライしたことは間違っていなかったと思いますので、これを次のレースでうまく機能させられるようしっかり準備したいと思います」

以上